



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年6月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

## ～ '07 神通研集会報告 ～

「災害」への取り組み

～全通研集会inみやぎ（'07/8/3～5）

第5講座参加報告～

CS 障害者放送から奥能登地震の時、行政が把握している居住者の情報に基づき、行政担当者、保健士、ろう協、手話通訳者で聴覚障害者宅の全戸訪問を行ったという報告がありました。日頃からの行政とろう協や手話関係者との関わり方や積み重ねが非常時の対応に大切な役割を果たすのだと思いました。

また、柏崎原発が地震の被害を受けた時、文字放送付きの防災無線が流れたそうで、このような設備の設置も可能だということがわかりました。

CS 障害者放送が助成金で「聴覚障害者の防災マニュアル」を作成しました。全国からもたくさんの問い合わせが寄せられているそうです。他参考資料と同様に展示コーナーで閲覧できます。

## ～ 定例会 ～

5/18（日）定例会を開催しました。

集会の内容のひとつ、「サークルで起こりやすい問題は？」。サークルの目的やルールについての考え方が伝わっていない。意思の疎通がなかったことによる誤解。特定の何人かによってサークルが運営され、会員の意見が反映されない。役員さんだけに負担が掛る、役員の成り手がいない等、協力体制の問題。集会では、今、サークルで抱えている悩みを出し合い、サークルの現状を振り返りながら問題解決のヒントを見つけてみましょう。

【次回定例会】

6/21（土）10:10～12:00

県民活動サポートセンター 603

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

職場でバザーを開きました。目的はもちろん収益なのですが・・・。

値引き交渉にすぐに応じてしまう人。値引きはしないけれど、おまけをたくさん付けてしまう人。ほかのお店を見ては、山のような買い物をする人。まさにお人好しの天ご盛り。

なるほど。職場が居心地の良い理由がここにあるのだと納得した愉快的な1日でした。

南風